



学生数/約19100人
 学部/文、教育人間科学、経済、法、経営、国際政治経済、総合文化政策、理工、社会情報、地球社会共生、コミュニティ人間科学
 大学院/文学、教育人間科学、経済学、法学、経営学、国際政治経済学、総合文化政策学、理工学、社会情報学
 THE世界大学ランキング2022/1201+位、同日本版2021/52位

狙い

- ▶ 高校までに培った「思考力・判断力・表現力」を評価する入試の実現
- ▶ 各学部学科の学びの特性に適した学生の獲得

高校	入試	大学教育
高校生に向けて 各学部学科の 学びの情報を 提供 ・「青学TV」 ・「AGU LIFE」 ・進学相談会	一般選抜 (個別学部日程) 各学部学科によりI~IIIの いずれかの方式で実施。 「独自問題」は記述式を 含む総合問題や個別科目問題、 論述を課す。 <ul style="list-style-type: none"> I 独自問題 + 共通テスト II 独自問題 + 共通テスト + 英語資格・検定試験 (出願資格として利用) III 独自問題 	全学共通の教養教育 「青山スタンダード科目」 1年次 2年次 3年次 4年次
	一般選抜 (全学部日程) 各学部学科が指定する教科・科目を 受験する。全てマークシート方式。 <ul style="list-style-type: none"> 独自問題 (マークシート) 	所属する学部・学科の科目 基礎や概論を中心に学ぶ >>> 専門分野を深く探求する
	共通テスト利用 入学者選抜 <ul style="list-style-type: none"> 共通テスト 	多彩な学問領域と 「深化する専門教育」
	学校推薦型選抜 総合型選抜 その他の選抜 各学部学科によりI、IIの いずれかの方式で実施。 <ul style="list-style-type: none"> I 独自問題 書類審査 面接 + 英語資格・検定試験 (出願資格として利用) II 独自問題 書類審査 面接 	

注目!

Webを通じて青学生の姿を発信
 学部学科の特色を高校生にアピール

コロナ禍により高校生と直接コンタクトする機会が減っている中、青山学院大学はWebを通じた情報発信に力を入れている。特に重視しているのは「リアルな学生の姿」だ。その取り組みの一つである「青学TV」は主に学生の日常生活を紹介する動画配信サイト。運営は大学広報課が行うが、企画は現役学生が中心になって学生目線で発案する。高い頻度で更新しており、高校生が「青学での学び」をイメージしたり、自分の将来像を描いたりするのに役立つ内容になっている。もう一つは「AGU LIFE」だ。このサイトは、学部学科の学びや、教員と学生との密接な関係にクローズアップした内容となっており、在学生や卒業生の言葉を通して学部学科の特徴を伝えていく。

一方、地方における直接的な広報活動も重視する。全国主要都市で実施する進学相談会には入試や広報に関わる職員だけでなく、入学アドバイザーの職員も参加。専門の職員による質問への対応、大学の説明を通して、地方の高校に対しても「青山学院だからこぞできること」を伝えているという。



▲学生が企画に携わる「青学TV」は毎週更新。
 ▲「AGU LIFE」ではすでに100人以上の在学生、卒業生が登場している。

青山学院大学

CASE STUDY

記述式・論述・総合問題で
 学部学科の学びへの適性を判断



学長 阪本 浩

さかもとひろし ● 1978年青山学院大学文学部史学科卒業。1980年東北大学大学院文学研究科西洋史学専攻博士課程前期2年の課程修了。青山学院大学文学部史学科専任講師、助教授を経て、1999年教授。2019年12月より現職。

一般選抜に総合問題・論述を含む学部学科の独自問題を導入した青山学院大学。多くの受験生が集まる入試方式に総合問題・論述を入れた意図を学長に聞く。

学部学科のAPに沿った
 多様な独自問題

本学で最も募集人員の多い一般選抜の「個別学部日程」。これまで主に3教科型の基礎学力を問う試験を課していましたが、2021年度入試からは「共通テストと独自問題の併用型」を一部に導入し、独自問題は総合問題や、記述式・論述を含む科目問題等になりました。基礎学力は共通テストで測り、学部学科の学びへの適性は、思考力・判断力・表現力を問う独自問題で判断するという設計です。これは全学的な方針に基づく取り組みですが、各学部学科のアドミッション・ポリシーに合致する学生を取るべく、どのような独自問題にするかはそれぞれに一任しました。各学部のディシプリンや育成方針に沿った独自問題のほう

が、入学後に求める学びにも直結した入試になると判断したからです。独自問題の内容は、「国語や日本史、世界史、政治・経済の内容を含む総合問題（法学部法学科）」「文章やデータの読み解きを含む小論文」（教育人間科学部心理学科）、「記述式問題を含む英語の長文読解問題」（経営学部経営学科）など、学部学科が最適だと判断した問題になっています。

思考力・判断力・表現力を評価する出題への不安感などもあり、志願者数は前年より減少しました。しかし、これから高校は学年進行で新課程に切り替わります。アクティブ・ラーニングや探究などを通じて主体的に学ぶ教育が一般化すれば、知識をもとに広い視野を持つ課題解決に挑む機会が増えるはずですので、「総合問題や論述のほうが力を発揮できる」と考える受験生が出てくるのではないのでしょうか。実際、先行して新課程に取り組む高校からは、「うちの生徒は記述式や総合問題は苦にならない」という声も聞きます。課題は採点の負担です。これについては、3教科あった試験を1つの独自問題に絞ったことで、教員の総力を挙げれば対応できるレベルにおさまっています。そもそも昔は入試で記述式問題を課すことは当たり前でした。私自身、長

大学の特色の発信が
 入試の理解につながる

入試広報に関しては、まずは本学の学びの内容を知ってもらおうことが先決だと思っています。「ぜひ、ここで学びたい」「ここなら自分の個性が活かせる」と思った高校生ならば、学部学科の特色をより深く理解するでしょうし、独自問題の内容にも自然と向き合えるのではないのでしょうか。近年は学生主体のWebを通じた情報発信を強化しています。

今回の入試改革の背景には、「青山学院大学の特色、独自性をより強く打ち出したい」という考えがありました。本学が25年前に明文化した理念「地球規模の視野にもとづく正しい認識をもって自ら問題を発見し解決する知恵と力を持つ人材を育成する」は、昨今の教育改革の流れに合致したものだと言えます。この入試改革の成果が出る4年後が楽しみです。